

Information_11

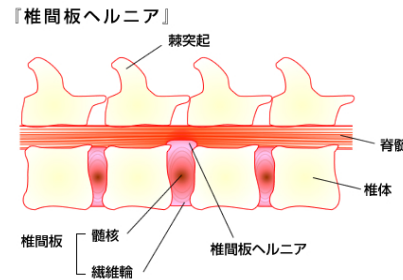


椎間板ヘルニアのおはなし

椎間板ヘルニアは、ダックスフントやコーギーのような胴長種の犬に多い疾患ですが、どの犬種にも起こり得ます。猫の発症は極めて少ないです。

椎間板の構造と機能

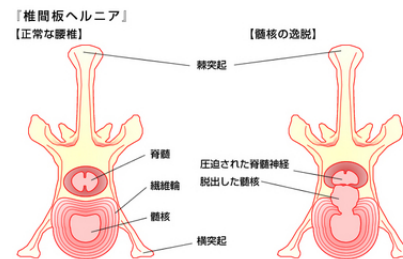
椎間板は髄核(すいかく)と線維輪(せんいりん)というゲル状の物質でできています。外力から大切な脊髄を守るための衝撃吸収剤の役割をしています。



椎間板ヘルニア

肥満や激しい運動による椎間板への過度の負担、また加齢によって弾力を失った椎間板が突出することで脊髄や神経が圧迫されます。これが椎間板ヘルニアです。

突出の部位や程度により、症状が異なります。首～腰にかけて起こりますが、犬の場合は8割以上が腰部での発症です。



症状

- 触ったり、抱こうとすると痛がって鳴く
- 動きたがらない
- 背中を丸めて震える
- 後ろ足を引きずって、前足だけで歩く
- ふらつく
- 自力での排尿や排便が困難になる



治療

症状は進行度によって、5段階に振り分けられます(グレード1～5)。

軽症の場合、薬で痛みを和らげ、**ケージで安静にさせます。**

重症(グレード4以上)では外科手術を行い、術後はリハビリで回復を促します。

グレード	症状
1	痛み、動きたがらない
2	ふらつき、後ろ足をずって歩く
3	麻痺、後ろ足が動かせない
4	排尿のコントロールができない(垂れ流し状態)
5	足の骨をベンチでつねっても痛みを感じない

スタッフより



予防には太らせすぎない、段差の昇降を避ける、滑りにくい床材にする、足裏の毛を定期的にカットしてあげるなどの工夫が大切です。

関節や軟骨の造成を助ける栄養剤(サプリメント)もありますので、リスク要因を持っているコの予防に、また一度ヘルニアを患ったコの再発防止に積極的に取り入れてあげたいですね。

